

秋の彼岸によせて

令和七年九月 大乘寺 長老 岡 光俊

今、多種多様な情報が溢れ、自分に必要なものを見出せず、不安を抱えている若者が増えています。

わが国の「情報の変遷」について振り返りますと、昭和三十年頃は、GHQ監視下での新聞、ラジオ、出版くらいだったと記憶しています。

その後、GHQの監視が緩和され、新聞、ラジオ、テレビ、雑誌、学術誌などのメディアは増えましたが、一定数で安定していました。その理由として、情報の配信には、巨大かつ巨額の設備が必要であった為、限られたメディアでのみ可能だったのです。

昨今、個人による情報発信が可能となったから、情報量は激増しています。

世界中から注目されている「生成AI」。

現在のAIの能力は、どのようなプログラミングも数分で完成させ、仕事に必要なアプリも、完成後、動作テストまで完結させてしまふところまでできています。

一年前までプログラミングは、専門的な知識を必要とし、限られた者の仕事でしたが、今やAIに任せられる仕事となりました。

企画書、報告書、提案書など、人間では何時間も必要であった書類作成も、AIを使えば、数分で完成してくれます。コールセンター等の対人の仕事も、人間の数倍の速度と正確さと情報量と判断力、そしてなにより、世界中のすべての言語で対応可能なAIに移行することでしょう。

人間にとって、「情報」は必要不可欠なものです。

しかし、産まれてからの成長の過程で本当に必要なものはなんでしょうか。

今のこの激動、激変の時代に向き合い、立ち止まり、しっかりと対応しなければ、人格も尊厳をも失い、家庭や職場で問題が増えることでしょう。

精神的に情緒不安定な状況では、人々は安穩で安定した日常生活は過ごせません。幼児から高齢者まで毎日、心安穩に過ごせている方々は、皆さまのまわりにどれほどおられるでしょうか。

お釋迦さまは、三千年前に、「一切の業障海は、みな妄想より生ず」と申されています。

「今、あなたのまわりで起きている、困りごとの海のような敵は、すべてあなたの考えかた、見方、聞きかたが間違っている結果であり、まわりや他人は一切関係ありません。すべての原因は、あなたの六根が曇っているからです」とお説きになっておられます。

皆さまは、自身の内なる物事の捉えかたをどれほど認識されていますか。一度、自問自答してみてください。

きつと、「多くのことが理解できていない」ということに気がつくでしょう。

本当の今の自分を知ること、自身の器を広げること。それらが身についてから、情報の扉を開いてみては如何でしょうか。

秋の彼岸、己の器が手に取るように見える経文を手にし、静かに己を見つめ、己の足りないところを教えて頂き、身につけさせて頂きましょう。

そして、今年の猛暑を過ごされたご先祖さまに、冷たくて清い水をたっぷり差し上げ、爽やかにになって頂き、皆さまそれぞれのご先祖さまに感謝の心一杯に参拝して頂きますよう、ご案内申し上げます。